

9月の台風

9月は大型で強い台風が四国に接近、上陸することが多い季節です。その時に秋雨前線の活動を活発にして大雨をもたらすこともあります。昭和20年代には台風が頻繁に襲来しました。徳島県美馬市の枕崎台風と香川県東かがわ市のテス台風の例をお伝えします。

■昭和20年の枕崎台風（徳島県美馬市）

昭和20年（1945）9月17日、枕崎台風が九州南部に上陸し、九州を縦断して中国地方を北東に進みました。吉野川流域では前線による降雨も加わって、平地部で150～200ミリ、山間部で350～450ミリの記録的な雨が降り、吉野川は未曾有の大洪水となりました。穴吹町（現美馬市）では、舞中島、穴吹地区の旧道付近の民家が軒まで水に浸り、穴吹～三島間の国道も冠水し、穴吹の中心街にも濁水があふれました。この水害を契機に舞中島西端から東端に至る明連川堤防の工事が昭和22年に着手され、10余年をかけて完成しました。明連川堤防の完成を記念して、昭和35年に大柳神社境内に防災工事記念碑が建立されました。＜穴吹町誌編さん委員会編「穴吹町誌」1987年、大柳神社の防災工事記念碑の碑文＞



■昭和28年のテス台風（香川県東かがわ市）

昭和28年（1953）9月25日、テス台風（台風13号）が室戸岬の南東海上を通過し、伊勢湾に進みました。引田町（現東かがわ市）の雨量は450.1ミリに達し、小海川堤防は決壊寸前、別惣川は大洪水となりました。また、馬宿川の堤防が100mにわたり決壊、護岸の溢水等により、床上浸水160戸、床下浸水562戸、田畑冠水373ha、道路損壊数箇所及び大川橋・御幸橋の流失という被害が起こり、鉄道線路の道床流失のため国鉄引田～相生駅間は不通となりました。ため池は決壊の危険にさらされ、川股池の流域には緊急避難命令が出されました。馬宿川堤防の災害復旧工事が昭和28年～34年に行われ、その記念碑「豊潤」が堤防の道路脇に建てられています。＜引田町史編さん委員会編「引田町史 自然・原始～近世・文化財」1995年＞

